

図書館友の会 ニュース

発行 岸和田市図書館友の会 《発行責任者 松谷 敬一》

2023年
10月号
No. 28

友の会「文学歴史散歩」(バスツアー)

今年は邪馬台国の所在地とも考えられる奈良県の「纏向(まきむく)遺跡」、卑弥呼の墓とされる「箸墓(はしはか)古墳」や奈良県立橿原考古学研究所附属博物館、桜井市立埋蔵文化財センターなどを訪れます。

日時：11月15日(水)図書館本館前 8:30 発
岸和田駅東側(第1ゼミナール前) 8:50 発
参加費：5,500円(入館料・昼食代を含む)

定員：32名(申込先着順)

「図書館友の会会員」以外の方も大歓迎!

申込方法：図書館本館へ電話(072-422-2142)か直接お申し込みください。

「友の会」各教室の方は、各教室担当者へお申し込みください。10月8日より受付

*キャンセル料：実施3日前(11/13以降)50%、実施当日(11/15)100%

◆行程：(中型バス利用)：参加費5,500円は当日徴収します。



橿原考古学研究所附属博物館

図書館本館前発, 8:30 ⇒ 南海岸和田駅東側(第1ゼミナール前)発, 8:50 ⇒
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館着 9:50【同博物館見学約1.5時間】同発 11:20
⇒ 和楽心/橿原神宮店着 11:30(昼食)同発 12:30 ⇒ 桜井市立埋蔵文化財センター着
12:50【同センター見学約1時間, 学芸員による説明予定】同発 14:00 ⇒【車中から箸
墓古墳, 渋谷向山古墳, 行燈山古墳を望む】⇒ 道の駅かつらぎ着 15:00/同発, 15:30
⇒ 南海岸和田駅着 16:20 ⇒ 図書館本館前着, 16:50

★参加者は、各自事前に検温して、マスク着用をお願いします。

訪問日、橿原考古学研究所附属博物館では「秋季特別展古事記編纂者 太安萬侶」が開催中です。今年は太安萬侶の没後1300年であり、太安萬侶の人物像を考古学的観点から探るべく、本貫地付近の遺跡をはじめ、火葬墓や墓誌に焦点をあてた展覧会を併せて見学できます。

*当日バスツアーにお越しになる方は、図書館の駐車場への駐車はご遠慮ください

ひねのしょう

日根荘にみる鎌倉期と戦国期

一 荒野開発と年貢徴収



「とても深く掘り下げた内容で良かった」等の感想が

8月5日(土)、八木市民センターで井田 寿邦 氏(泉佐野の歴史と今を知る会事務局長)を講師にお迎えして開催。歴史に興味のある方々が50人も参加されました。

今年2月に開催した「史跡を歩く会『日根野絵図を歩くツアー』」に参加された方は、現地を思い浮かべながら受講できる講座となりました。

感想

長年に渉る調査と研究に裏打ちされた自負が感じられた

まず序論で、「友の会」副会長の杉原氏が、久米田寺が日根荘の荒野開発に関わった経緯とその背景について説明され、続いて講師の井田氏の講義となった。井田氏は1949年富山県生まれ、大阪府立高校の社会科の教諭として奉職し、2015年退職。1988年には「泉佐野の歴史と今を知る会」を結成し、毎月一回、会報を発行。現在もその事務局長を務められ、会報は本年8月で428号を数えている。

井田氏は、私のような日根郡の歴史地理に不案内な参加者に対しても容赦がない。微に入り細を穿つ説明は、日根郡の鎌倉期における地域の開発とその特徴、九条家の動向、開発を巡る対立、さらには戦国期の根来寺の勢力伸長、九条政基の日根野荘滞在(1501年3月～1504年12月)と「旅引付」の重要性、彼のぼやきと借金、そして帰京の背景等に及び、淡々と語り続けられる姿に、長年に渉る調査と研究に裏打ちされた自負が感じられた。質問に際しても、わかる事に対しては丁寧に、わからないことに対してはわからないと言い切る真摯さには、研究者としての矜持を垣間見ることができた。

(池田 雅治)

感想

農地開発の大変さに深く心が注がれた

大木地域とか関白九条政基とかは以前に聞いたことがあったし、谷状の地形から扇状地のように広がった谷あいの大木地域を高台から眺めたりしたことがあった。その後「日根野村絵図」を歩くツアーで、井田先生に案内してもらえる機会を得た。用水路のような井川(ゆかわ)が耕作地に取り入れられていたし、無数のため池があり、豊かな耕作地が広がっていた。どのように開発されたか知りたくて今回の講演に参加した。講演は、いろんな知識を必要とされ、私にはちょっと難しい内容であった。

今回の講演で、荒れ野であった原野をいろんな人たちがかわり、生産を高めるための私有地としての「荘園」の始まりから、守護、代官、寺社、のかかわりを詳しい説明された。開拓には朝廷や高野山寺僧、九条家に久米田寺もかかわっていた。何度か頓挫があっ

た。その後、九条家領「日根野荘」の成立とつながる。その間のいろんな動きはあるが、複雑で、私は説明文上を目で追うだけ。武士の「悪党」化と百姓たちの新しい動きが「惣村(そうそん)」の形成、農民が集団化して水利・開発を主導になる。

室町幕府時代では。和泉両守護と根来寺との確執、管領家 畠山尚順・根来寺、紀伊へ没落(日根野氏)。その後1501年、九条政基(57歳)、日根野荘へ1501年3月29日無辺公院に着く。4月1日大木(下大木)内の長福寺に入る。1504年12月帰京。その4年間見聞きして得た情報を具体的に政基の視点で記したのが『旅引付』である。

平安末期から、鎌倉初期、中期後期、室町時代、戦国時代と時代の流れの中で、支配層は変わってもそこで生活している農民は生活模索をしていっている。農耕生産のため池の水の確保の苦勞がわかり、荘園年貢の納め方自体も個々の百姓が荘官に指示されて納める従来のやり方ではなく、惣村が百姓たちの年貢等をまとめて納めるやり方を手に入れた。

日根野荘に関連する取り組みを縦割りに見てきて、農地開発の大変さに深く心が注がれた。
(芝原 歌代子)

地名の秘密

②⑥ 孝子(きょうし)

南海本線難波駅から39番目の駅名。孝子(きょうし)とは普通読めない難解駅名。「孝子」の地名由来に2説あり、①橘逸勢(たちばなのはやなり)の娘「あやめ」の孝行伝説と、②役行者の孝行伝説。①の橘逸勢って誰?余り知られていないが、左大臣・橘諸兄を曾祖父に持つ名家の出、最澄・空海と共に遣唐使として派遣され書に優れ、後に空海・嵯峨天皇と共に平安の“三筆”と言われた人物。承和の変(842)の政変で藤原氏の讒言により捕らえられ、伊豆国に配流の途中、遠江国で病死、父を追って遠江国まで行った娘「あやめ」は、そこで尼となり、妙沖と号して父の菩提を弔った。のち許されて父の遺骨を持って帰京し葬る。さらに当地に分骨し父の墓を守り、そこで生涯を終えた。「孝子」の地名は橘逸勢の娘の孝行伝説によると言う。府道752号線の先に南海電車の線路を挟んで2つの墓が立っており「贈従四位下橘逸勢」「孝女橘氏墓」とある。孝女橘氏の墓は孝行した娘「あやめ」のため村人が造ったと、言われている。2つの墓碑には年号・建立者等一切刻まれていないし、孝子にも縁者がいない。

②役行者が天皇を呪っているとの讒言により追われた時、役人が役行者の母を人質に捕らえようとしたため、母の身を思って当地でみずから捕らえられたという、役行者の孝心にちなむ地名。孝子(きょうし)にある高仙寺(曹洞宗)は役行者開基の寺。

《資料》 ・紀州街道(向陽書房)・南海沿線ぶらり散歩本線阪堺線編(ナンバー出版)・大阪難読地名がわかる本(創元社編集部)・みさき風土記(岬町の歴史を探る集い)その他インターネット資料。

《文責》 文章教室 浦田榮二

図書館友の会「詩の教室」

8月3日に公開講座を開きました。

猛暑の中、「詩って何だろう」をテーマに、参加者 13 名で開催されました。講師は、詩人で文芸評論家の倉橋健一氏。

今回は、特別に講義の時間は取らず、持ち込まれた作品の合評で始まりましたが、進める中で、宮沢賢治の「小岩井農場」に触れ、参考にしたらいいとか、ソネットにしてみればと、立原道造や堀辰雄の話になったり、バイロンの話が出たりしました。

また、一連二連を逆にしたほうがいい、スタイルは書いているうちに変わるものだから初めから決めなくていい、とか適格なアドバイス。詩を書くということは自分を見つめること、然りです。

個性まちまちの各人の詩への先生のアドバイスがとても勉強になり面白かったです、との参加者の感想です。

歴史の重層性からみた 摩湯山古墳と久米田古墳群

講師：山岡邦章 氏（岸和田市郷土文化課 文化財担当長）

摩湯山古墳。岸和田では最大の古墳であり地上にある墳丘を有する古墳では最古です。しかし、その実態は不明のままです。転じて久米田古墳群。貝吹山古墳や風吹山古墳があり岸和田市内では比較的調査の進んだ古墳です。今回は岸和田の古墳を軸に、その古墳がたどってきた歴史を追い、岸和田の古墳とはなにかを考えます。



日時 12月23日(土) 13:30~16:00, (開場 13:00)

場所 岸和田市立八木市民センター(池尻町), 講座室 1 (2階)

定員 60名(申込み先着順)

※無料, 12月5日(火)より受付(10時~18時)

申込み・問い合わせ: 岸和田市立図書館(本館)へ。 Tel: 072-422-2142

*駐車スペースが少ないため、自動車でのご来場をご遠慮ください。

【主催】 岸和田市図書館友の会・八木地区市民協議会・岸和田市立図書館

図書館友の会「文章教室」公開講座 「なんでも書いてみよう」

日時 11月18日(土) 午後1時~4時

場所 市立図書館(本館) 3階 視聴覚室

定員 20名 《参加費 無料》

申込み 図書館に電話(072-422-2142)。11月5日(日)から受け付けます。

倉橋健一氏の講義(約30分)の後、質疑応答。その後、教室生の作品の合評を行います。教室生以外の方も作品を持参していただいても結構です。(800字以内)

※講義テキスト(倉橋健一著『文章を書く』)を当日配布します。

どなたでも
ぜひ、ご参加ください

